

■ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル

今年で32回目を数えるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル日本ツアー2017公演が、7月12日にアクロス福岡のシンフォニーホールで行われました。

この公演は、アジア太平洋子ども会議・イン福岡と国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとして毎年パナソニックが主催して行われているものです。

今年の公演も、音楽の楽しさや魅力を伝える素晴らしい音色で、沢山の子どもや大人からなる観客を魅了しました。印象に残った演奏としてはモーツァルト作曲の「ジュピター」で、モーツァルトの最後の交響曲であり、モーツァルトの作品の中でも最高傑作と呼ばれる作品です。緻密な構成でスケールが大きく、美しい音色と究極技巧が駆使された作品で魅了されました。その他では、バーンスタイン作曲の「ウエスト・サイド・ストーリー」で、ブロードウェイ・ミュージカルですが、ジャズやクラシック、ラテンなどの様々な音楽の要素を巧みに織り交ぜて作られたこの曲は、大変楽しく面白く聴けました。アンコール曲の最後は、いつものようにエルガー作曲の「威風堂々」を弾いてくれました。観客は魅了されなかなかに拍手が鳴りやみませんでした。

会場ロビーでは、国連ハビタット福岡本部の人が、アジア太平洋地域における「いのちの水」プロジェクト募金活動もしており、多くの方が募金に協力をしていました。(佐竹芳郎)



■ハビタット勉強会開催

5月22日(水)国連ハビタット福岡本部より三浦ひろ子さんにお招きいただきまして、国連ハビタットの活動に関する勉強会を春吉公民館にて行いました。参加者は、合計16人(会員9名、一般7名)で会場が埋まるほど集まりました。

勉強会では、ハビタットの役割から、世界で起きている課題、福岡とハビタットとの関連などを分かりやすくお話しされました。

特に、世界が30人ほどだとしてそのうち安全な水が飲めるのは何人かや、整備されたトイレを使えるのは何人かなどクイズを交えたお話でひきつけられ、また身近な問題として感じる事ができました。

今回、お話しされた内容を基に、今後多くの市民へハビタットの役割を知っていただいたり、活動を行っていくと思われました。(前田直樹)

編集後記

やっと、当会のメインイベントである「若者よ国連を目指せ」を開催できホッとします。遠くは東京や大阪からお越しになった方もおり、関心の高さが伺えました。今後も、多くの市民が国連や国際協力に興味を持ってもらえるような企画にしたいと思います。ご参加下さった方々、ご協力頂いた方々、誠にありがとうございました。なお、紙面の都合により7月19日の国連ハビタット福岡本部設立20周年記念シンポジウムと8月のハビタットひろば「高校生が出来る『国際貢献』とは?」は次号にて掲載致します。(前田直樹)



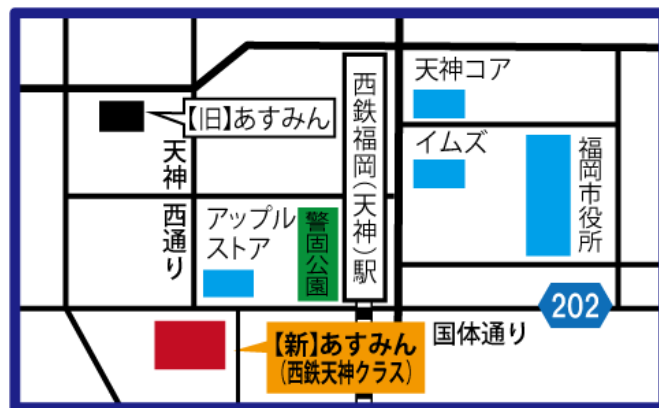
■今後のスケジュール

10月1日(日) ハートフルフェスタ
 10月1日(日) 第40回ハビタットひろば※要申込
 10月18日(水) 定例会
 11月22日(日) 地球市民どんたく
 11月15日(水) 定例会
 12月1日(金) 第41回ハビタットひろば
 12月8日(金) 第11回インターナショナルナイト
 12月14日(水) 定例会
 ☆日程は、変更になることがあります。
 直前に、Facebook やメールでお知らせします。

■定例会の見学に来ませんか?

ハビタット福岡市民の会では、毎月第三水曜日に定例会を実施しています。若年者からご年配までの幅広いボランティアスタッフが今後の活動について話し合いを行っています。もし、定例会に初めて参加される方、気になる方は見学だけでもかまいません。一度、顔を出してみませんか。

会場は、福岡市天神のアップルストア向かい側、1階にソニーストアがある「西鉄天神クラス」の4階に入っています。ただし、日程や会場の変更がある場合がありますので、参加される方は事前に下記お問い合わせよりご連絡頂ければと思います。ご参加のほどお待ちしております。
 会場：福岡市中央区今泉 1-19-22 西鉄天神クラス 4階



事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：
 〒838-0134 小郡市下西鰯坂 1493 牟田慎一郎宛
 お問い合わせは：
 TEL：090-6770-2481(牟田)
 FAX：0942-41-2080
 E-mail：muta@ktarn.or.jp
 Facebook：ハビタット福岡市民の会
 HomePage：http://cnhf.web.fc2.com



51号の主な内容

- 若者よ国連を目指せ
- ハビタットひろば
- ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
- 国連ハビタットの活動に関する勉強会
- 今後のスケジュール

第51号
<http://cnhf.web.fc2.com>

■若者よ国連を目指せ

8月20日ハビタット福岡市民の会主催で「若者よ、国連をめざせ～国際機関で働くためには～」を主催しました。この企画は公益財団法人福岡県国際交流センターの共催のもと、日本ハビタット協会福岡支部の協力及び、国連ハビタット福岡本部の後援により開催しました。



まず、牟田さんによるハビタット福岡市民の会の紹介から、国連ハビタット福岡本部の是澤本部長のご挨拶、そして外務省国際機関人事センターの萩野先生による基調講演、パネルディスカッションではナイロビ本部でJPOとして活動している竹内奈穂さんをお招きしました。

基調講演では、国際機関人事センターの紹介から、国際機関で働くにあたっての適正テスト、国連での働き方や履歴書の書き方、面接内容などお話しくださいました。

まず始めに、萩野先生が所属している外務省の国際機関人事センターに関しての紹介が行われました。国際機関人事センターとは、主に日本人が国際機関で働くための情報提供などを行っており、具体的にはJPOでの派遣、国際機関での空席ポストの案内、「国際キャリアガイド」での開催を行っています。



それから、「グローバル人材」の利点について利点についてお話されました。戦後の日本の労働環境は、「右肩あがり」の経済環境で一つの企業で定年まで働けられましたが、人口減少に伴い状況が少しずつ変化してきました。例えば、メーカーなどは物が売れなくなり、海外に販路を見出します。その際、外国人相手にモノを売ることを考え、外国の人とコミュニケーションが取れる「グローバル人材」が必要とされるとのことです。このように、日本社会の現状と「グローバル人材」の必要性についてお話されました。

国際機関で働くための「グローバル人材」の必要最低限の要件とは?

- ・ 専門家である事
- ・ 英語ができる事

それから、仕事の働き方についてのお話がありました。その働き方とは、ジェネラリストとスペシャリストです。ジェネラリストとは、会社の営業・人事・法務などなど「何でもやります」という立場。一方、国際機関では自分がやりたい仕事を獲得しに行くようなスペシャリストです。そのためにはどのような学歴、職歴を積んだらいいか考えることが大事になるそうです。

ほかに、国際機関で働くためには、英語ができることと、専門家であるということです。この「専門家」とは、修士号を持っている事と、職歴(修士号に関連した仕事)が2年以上あることをいいます。国際機関で働くためには、職歴が非常に大事な要素であり、その為にはキャリアを自分で考えて積んでいくことになります。

専門家の条件

- ・ 修士号(大学院2年)・職歴2年以上

国連での働き口は大きく分けて、一般職員と専門職員がありますが、「専門職員」となると、高度な専門性を持って世界で活躍できるようになります。専門分野について、従来に近いイメージで経済、開発、教育、保健、環境、難民、食料などがあります。ただし、こういった職種で経験を積むためには、国際的に活躍する組織でないと難しいと言われます。しかし、管理部門分野として、人事、財務、予算、法務、調達などは、民間企業でも経験可能です。そのため、こういった仕事に携わっている人でも、国連での仕事の可能性はあります。

国連職員には2種類あり!

- ・ 専門職職員 (professional staff)
 → 高度の専門性をもつ
 → 世界の各地で勤務する
- ・ 一般職職員
 → 現地採用 (日本人なら日本での勤務のみ)
 → 専門職職員をサポート

国際公務員の給与について、大きく基本給と地域調達給に分けられます。基本給の平均は\$46,026で、地域調達給が(基本給のおよそ63%)\$29,088です。

国際機関御応募方法に関しては3つあります。一つ目は空席公募といい、一括採用ではなく、空きが出た枠に対しての公募です。「外務省国際機関人事センター」HPの「最新の空席情報」から確認できます。

二つ目は(若い人にはお勧めの)JPO派遣制度です。JPO派遣制度とは、将来国際機関で働く意思のある若手日本人を、2年間国際機関へ派遣する制度です。お勧めの理由は、倍率が低いこと(約5人に1人)、2年間終了した後も空席公募で決まりやすくなること等があります。JPO派遣制度の受験資格は、①年齢が35歳以下であること②大学院修士号を持ち、2年以上の実務経験があること③英語で職務を遂行できること④日本国籍を有すること⑤国際機関で勤務するという気持ちです。⑤の気持ちがあれば途上国のボランティアツアーに参加したり、国際機関でのインターンシップなどを経験したりするでしょう、そういった活動をすれば国際機関で働こうという意思を伝えることができます。

三つ目は、国連事務局 YPP です。受験資格は①日本国籍を有すること②32歳以下③試験実施分野で学士号以上の学歴であること④英語またはフランス語で職務遂行が可能なおことです。学士号以上のため、大学卒業後に受験は可能ですが、日本人で学士号だけで決まった人はおらず、全員修士号を取っているという現状があります。

	①空席広告	②JPO派遣制度	③YPP
実施機関	各国際機関	外務省	国連事務局
年齢制限	特になし	35歳以下	32歳以下
学歴	修士号以上	修士号以上	学士号以上
職歴	ポストによる	2年以上	問わない
ポイント	随時応募が可能	倍率が低い	学士号のみで応募可能

大学時代にできる準備とは、(語学のブラッシュアップという意味では)英語圏での留学や、国際協力に関連するセミナーの参加、国際機関でのインターンの経験、NGOでのボランティア、旅行会社が企画しているスタディツアーでの参加などがあります。そして、大学院に進み自身の可能性を広げたほうが良いとのこと。

空席情報の確認方法とは、UN-HABITATの場合、公式HPを開き「ABOUT US」より「JOIN US」を選択。そこで「Vacancies」より欠員が確認できます。なお、特に見ておきたいのはそれぞれのポストの「EDUCATION」や「PROFESSIONAL EXPERIENCE」、「LANGUAGES」です。EDUCATION(=学歴)は修士号の専門、PROFESSIONAL EXPERIENCE(=職歴)は、どのような仕事をしてきたか、LANGUAGES(=言語)は必要言語についてです。

履歴書については、そのポストに親戚が所属しているかの確認や、短期ポストでも働きたいか、英語ができるかどうか、前職の達成事項や退職理由、年棒などを書く欄などがあります。なお、短期ポストは「働きたい」にマルをしたほうが良く、例え短期であっても正規のポストに入る際に有利になります。

面接については、対面や電話であります。事例として電話面接での質問は「ほかの異なる背景を有するパートナーと協調して仕事をしたことがあるか」「①資金調達に当たってあなたの強みは何か②資金を増額した経験はあるか③拠出を増やすことができるか」等があります。

インターンシップについて、非常に貴重な経験となりおすすです。国際機関人事センターのHPでは、学部生でもできるインターンの募集を確認できます。

今回お話しした内容の参考となる書籍は、『国際機関で見た「世界のエリート」の正体(中公新書ラクレ)』(著者:赤坂清隆)です。今回のシンポジウムでお話したことが、1冊にまとめられていますので、関心のある方は読んでみて下さい。

〈パネルディスカッション〉

第2部ではパネルディスカッション「こうして私は国連職員になった」を行いました。パネラーは、現在国連ハビタットナイロビ本部でJPOとしてご活躍中の竹内奈穂さんです。



・自己紹介をお願いします

竹内さん(以下略)ー現在、(JPOとして)国連ハビタットナイロビの本部で廃棄物を専門としております。

・JPOになるまでの経緯をお願いします。

ーもともと、環境問題に興味がありました。それで、大学で建築や都市計画を学び、卒業後国際的に活動したいと思って決まったのが国連でした。

・JPOを目指すために特別なことはされましたか。

ー大学卒業後、建設コンサルタント会社で働いた時にJPOの制度を知った。英語を話せるために、外国人の友達を作り日常的に英語を話す環境にして、ある程度英語が話せるようになった28歳の時に留学をした。また、実務経験を積んでから修士号を取得して良かった。現実を知って勉強すると吸収率も高く、レポートでも生かせるので成績も良かった。自分の人生でしたいことを、見えているか見えていないかは大きいと思う。

・国連で働くにあたって印象に残っていることはありますか。ーSDGsという、人類社会が2030年までに目指す17のゴールがある。その17のゴールの下にターゲットが169個、目標を定めるための指標が250個程ある。その中で、ごみに関する指標に携わっている。世界中で適正処理率をモニタリングすると、どの国でどのくらいのごみが適正処理されているかがわかる。

そうすると、例えばゴミ処理機械を扱う会社や、そういう産業を抱えている国が、とある国で80%しか適正処理されていないとわかると、ビジネスマーケットが産業界に広がる。例えば、地球をきれいにするための投資を先進国から、途上国に持っていくやすくなるなど。自身がプロモーションしていることのインパクトが大きいことがやりがいだと思う。ほかにも、ケニアでプラスチックを集めて職業機械を作るのは楽しかった。

・国連が日本人に期待されることは何だと思いますか。ー日本政府のファンドレージング(資金調達)は大きいと思う。また、日本人はほかの国に比べて、細かいところに気が付いたり安心感を与えられていると思う。

・学生時代に自分の専門性はどう見つけていけばいいですか。ーやりたいことを探して、続けていくこと。私は都市計画の仕事をしたかったが、実際に就職した先は廃棄物を主にしていた。思い通りにキャリアは動かないかもしれないが、そこに降ってきたものを投げ捨てるのではなく、まずやってみること。やってみながら、自分のキャリアを調整する。やりたいことと、社会が求められることがずれることがあるが、そこは柔軟に対応して、やりたいことを見つけていけばいいと思う。

・今後のキャリアについてお聞かせください。

ーSDGの仕事でベースラインを作りたい。今のキャリアの延長線上で、途上国の開発や環境計画に携わってきたい。

〈会場からの質疑応答〉

・JPOでの期間後の、国連職員になる割合と、国連職員になっていない人の進路とは？

(萩野先生)7割5分の方は(形態は色々あるにしても)国連職員に決まっている。1割5部は自身の意思で国連職員になっていない。残り1割は、国連職員に決まらなかった人だが、専門知識や英語を使うような、JICAや国際NGO、有名企業に再就職されている。

・国連職員になると、(女性の方は特に)家族や子供を持つことの兼ね合いが難しいのでは？

(竹内さん)家族ができれば安定がほしいという人おり、パートナーのキャリアと自身のキャリアの折り合いのつけ方に苦労する人もいる。例えば、2年間はパートナーのキャリアに付き添い、次の2年間は自分のキャリアで動くというカップルもいる。また、本部で就職すれば私の上司のように27年間働いている人もいる。

(萩野先生)国際機関で働く人の人生は、自分が決めている。子供ができていったんは国連を離れても、また子供が大きくなってから働くというもありだともいます。

・短期間でインターンできる機会がありますか。

(是澤本部長)随時募集しており、ホームページで公開している。また、インターンといえども、研修という感じではなく仕事として任せられる。

・文学部は国際機関で働けないのですか？

(萩野先生)文学部でも、修士号でSDGに関係する勉強して国際機関に働いている人もいる。日本文学のスペシャリストだけでは、国際機関でのニーズがない。

・高校3年生で人文科学的な学部を考えているが、大学では幅広く学べる学部よりも専門など特化した学部がいいですか。

(萩野先生)専門は大学院からでも遅くはないと思う。(竹内さん)学部よりも大学院で勉強したほうが影響がある。ユニセフなら(化学など)水やゴミの専門家や、教育の専門家、保健の専門家でもいいと思う。WFPなら貿易関係。できるならば専門を決めていたほうがいい。



基調講演では、国連職員になるための具体的な流れや条件など、すごく実践的な内容をお話して下さいました。また、パネルディスカッションでは現場の声を聞いてよりリアルに感じました。今回、シンポジウムを開催し「私でも可能性があるんだ」と懇親会で話した人もおり可能性を感じた人はいたかと思えます。(前田直樹)

■ハビタットひろば

●ハビタットひろば特別編 「女性が住み続けたいまち、みんながすみ続けたいまち」

6月28日(水)18:30より、アクロス福岡3Fのこくさいひろばにて、国連ハビタット福岡本部設立20周年記念イベントとして「女性が住み続けたいまち、みんながすみ続けたいまち」というテーマで講演会が開催された。



是澤本部長のご挨拶のあと、本部長補佐官の星野幸代さんのコーディネートのもと、「アバンティ」代表取締役の村山由香里氏と「でんホーム」代表取締役社長の藤本香織氏がパネラーとなってスペシャルトークショウが行われた。

とくに2030年に向けて持続可能な開発目標であるSDGsについて、自分の問題として考えて欲しいとの意見が出された。住み続けられるまちづくりについては、都市の改善が我々の課題だと指摘もされた。でんホームの藤本香織さんは、「街並みに合った家づくり」を通して、明るい未来をつくることを目指しておられ、実際にけられたすまいの写真を見せながらそのコンセプトをお話しいただいた。

アジア地域を女性たちをとりまく課題とくに貧困のなかで、水にまつわる問題、安全な水の確保が課題である。

SDGsを理解しながら、自分にできることから実践していこうと思った。(牟田慎一郎)



●第38回ネパールの水を守れ！～「いのちの水」事業活動報告～

国連ハビタット福岡本部と(公財)福岡県国際交流センターとの合同レクチャーシリーズ、第38回となる今回は、「ネパールの水を守れ」「いのちの水」事業活動についての報告がなされました。

ネパールでは、人口増加や生活様式の変化等により、生活排水が直接河川や貯水池に流れ込み、水質が著しく悪化し、また、適切な下水や廃棄物の管理が行われていないため、環境汚染が懸念されています。こうした状況の中2015年に発生した大地震はますます深刻な事態を招いていると同時に

(水を汲む作業は女性や子供たちの仕事となっている現状においては)女性の就業機会や子供たちの就学機会を失うという社会問題をも引き起こしています。

国連ハビタットは、2008年より「いのちの水」事業キャンペーンを実施し、2013年に特別企画「ネパールの水を守れ！」を立ち上げ、福岡・九州とネパールを繋ぐ顔の見える支援を呼びかけてきました。

今回、水質改善に向けた技術提供をいただいたアクアサービス(株)の佐伯代表、田浦副長様にご登壇いただき、ネパールにおける活動等について報告されました。

アクアサービス(株)は、環境にやさしい低コストのバイオ資材を用いて国内の多くの水環境、土壌の改善に取り組んでいる福岡市を拠点とする企業で、これまで国連ハビタットと連携し、ネパールをはじめスリランカ、ラオス、ミャンマー等においても河川・湖水・下水施設等の水環境の浄化・改善に努めてこられました。

アクアサービス(株)では、アクアリフトという微生物資材を使って、微生物を増殖させ、池や河川の再生能力を引き出し、ネパールの水環境を改善すると同時に微生物の培養技術の提供も行ってこられたそうです。(坪根義徳)